



3号

1997年 秋・冬号

## イグナチオ教会と 愉快的仲間たち

「もはや二人ではなく一体 (Dne) である」マタイ19・6

主なトピック—感謝特集号—

- 結婚感謝の集いのお知らせ
- 司祭からのメッセージ
- 体験を語る
- 遷堂式にこめられた願い
- 教会からのお知らせ

## 実りの秋、三つの結婚感謝の集い！ 幼児洗礼も

「人間が一人きりであるのはよくない。私は、彼に似合った助け手を与えよう」(創2・18)という神のおはからいで、結婚が成立したことに感謝を捧げ、あわせて

私たちをめぐるさまざまな人々に対して感謝の念を深めるために、聖イグナチオ教会は三つの感謝の集いを計画しました。10月12日(日)の午後行われた結婚クラス修



司祭・ヘルパー同待ってます！

了者を対象にした感謝ミサには、大きな喜びを心に約350人の人々が参加しました。11月には、今年現聖堂最後の年であることにちなみ、23

日(日)14:45に献堂以来の挙式者による記念感謝ミサが、30日(日)14:45にはセミナー修了者のために、結婚式の感激も新たに感謝の集いが行われます。また、10月10日(金)の午後の幼児洗礼式には20名のあかちゃんが受洗し、参列者一同今後の健やかな成長を祈りました。



### 相手に恵まれ、 愛し愛されたことに感謝！

おほえていますか？あの時の讚美歌、美しい「平和の祈り」のあの言葉  
ろうそくの光の前で「二人の誓い」  
を新たにしましょう

いっそうの愛と信頼で結ばれた家族であり続けるために！

11月30日(日)セミナー結婚感謝の集い  
子供たちも連れて参加してください。  
待ってます！

### 幼児洗礼って？

親の信仰にもとづいて、乳幼児期に無償で神から永遠の生命をいただくものです。やがて本人が少年・少女になった時に、自分の意志でキリストの体である「聖体」を初めていただく「初聖体」、信仰の確認である「堅信」へと進むことができます。親にとって一番大切な心の命を、身体の命と同じように子供に伝えたいという、ごく自然な親心のあらわれであり、形の上では、信仰の第一歩を踏み出したものといえます。



マリア小聖堂の聖母子像

皆さん こんにちはリバスです



誰でも文句を言われるときには不愉快になりますし、むやみに文句を言われると、夫婦の不和や喧嘩のもとになります。逆に「あり

がとう」という言葉ほどありがたいものはありません。それは言われる人にも言った人にも、心を潤す豊かさ、喜びと希望をもたらします。

私も36年前に、初めて許しの秘跡の中で人の罪の告解を聞いて、許しを与えたときに、向こうから、ほっとした気持が伝わってくる深い息とともに「ありがとうございます」と言ってくれたその一言で、15年間の神学と難しい日本語の勉強が報われたような気がしました。それだけでなく、ひょっとすると役に立つ良い神父になれるかもしれない、とさえ思いました。

理想的な夫や妻は存在しませんが、各家族の中で「ありがとう」という言葉が聞ける回数は、その家庭の本当の幸福と将来への希望と深い関係がある

と思います。

日本語には外国語にないユニークな言葉があります。それは「ありがたい」という言葉です。親切なことをしてくれてありがとう、稼いでくれてありがとう、というだけでなく、さらに深いレベルでは「あなたの存在はありがたい」すなわち、神からパートナーとして私にあなたが与えられたことはありがたい、あなたのような人が私のような人を選んで、たくさん許してくれて、今でも愛してくれることはありがたい。そして、あなたの愛の表現の中で私に対する神の愛を感じられることや、子どもを通して神からの信頼を感じられることは何よりもありがたい。さらには、我が家庭をまわりの人々にとってありがたいものにして下さったことも、やっぱりありがたい。

きっと皆さんも、このようなありがたい気持を時としてどこかで感じておられるでしょう。それを言葉にして相手や子どもに伝え合って、「ありがとう」という言葉の回数が少しでも増えればと思います。私にとっても、セミナーを通しての皆さんとの出会いは神からのありがたいプレゼントでした。ですから私も皆さんに、心から言わせて頂きます。

「友情と信頼をありがとう。」

イシドロ・リバス

# 特集

## 今回のテーマは《感謝》



「感謝」とは何か。広辞苑を引くと「かんしゃ【感謝】ありがたく感じて謝意を表すること。」と定義されている。人生の中で、わかっているようでいて、実はよくわかっていないことが無数あるが、感謝もそのひとつかも知れない。少しでもその意味を理解しようと、結婚生活における感謝について、三組のご夫婦にお話を伺いました。(敬称略)

### 15年の時を超えて結ばれた2人 吉田裕・裕美子ご夫妻

お二人が結婚されたきっかけを教えてください。



小学生の同級生だったお二人は同窓会が縁で再開。95年春に粟本神父様の結婚講座を終えて同年4月に結婚。

と勿論難聴というハンデを意識しないことはありませんでしたが、彼はそんな私の不安を一切感じずにいられる人でした。幼

裕美子：私は大学4年の時に突然難聴になりました。一般のお勤めは続けていくのが難しいと考え、幼い頃から得意だったお菓子づくりを生かすため、卒業後、製菓学校に通い資格を得、自宅でお菓子教室を開きました。将来(結婚)のことを考える

い頃から知っていて気を使うこともなく、何でも話せて心休まる人でしたし。

裕：私は高校卒業後医科大学に進み医者立場から見ると難聴は病気とは受け取れませんし、それよりも彼女は明るく何事も一生懸命取り組んで努力する人でした。私は口下手で内向的ですから彼女のように他人を楽しませることが出来て家庭的で、料理やお菓子が上手で最高の女性です。まあ、お互いわがままなところもあって喧嘩もしますけど。

喧嘩なさるんですか? どうやって仲直りを?

裕：私は信者ではないのですが、結婚講座に通って夫婦や家庭の在り方を教えていただいたので喧嘩したときなどは思い出して冷静になって考えます。相手を理解しようとしたかとうことを考えるきっかけになり、きちんと相手に向かい合わなくてはと思います。

ではお互いに結婚したことによって感謝なさっているんですね。

裕美子：そうですね。理想は日々感謝の気

持ちを持っていれば争いもなく穏やかに過ごせると思います。現実の問題に直面すると感情的になり理想からは離れますが、御ミサでお祈りをしながら反省し、少しずつ理想に近づいていけるのではないかと思います。主人も同感でこれからもお互いに努力していけると思います。始めから全て解り会える夫婦はいないので、歳をとった頃お互いに結婚してよかったと思えるようになればいいですね。何より結婚前に主人が“どんなに自分の家の人々と意見が違っても他の人に反対されてもほくは絶対に裕美ちゃんの味方をするから”と言ってくれていますし。お陰でお互い自分の考えを正直に話せて意見が食い違っても理解しようと常に思っています。自分にも相手にも正直でいられる、うれしいことです。これが感謝かしら。

素敵ですね。でもお二人はお母様同士も学校のお友達でお家もご近所、周りの反発はあまりないのでは

裕美子：確かにそうですね。お互いの家族は理解しあっています。感謝。

### 離れて暮らしてわかった「普通の生活」に感謝 白壁勝栄・美香ご夫妻

ご結婚されて9ヶ月後、勝栄さんは1年にわたる海外での実施研修を受けることになった。

勝栄：私は日本たばこ産業に勤務していますが、当時は葉タバコの買付業務を担当していました。葉タバコは何種類もあり、買付計画を立てる上で、机上の知識だけでなく、それぞれの種類が栽培さ

れる土地の状況を見ても理解することが重要です。ジンバブエ、トルコ、ブラジルなど、12ヶ国訪問しました。各国で現地取引先にお世話になりましたが、その人たちとのコミュニケーションを深めるためにも役立つ研修でした。

その間美香さんも寂しかったでしょう。

美香：ええ。でも私も仕事に熱中しました。日本経済新聞社の人事部で働いています。実家や会社の人も、電話をかけたりして気を遣ってくれました。夫が発発する前に自



大学の先輩・後輩のお二人は、美香さんの就職活動が縁で出会い、94年春に粟本神父様の結婚クラスを修了。同年6月に結婚。

宅用のファクスを購入したんですが、お互いにその日のことをすぐに伝えられたのが良かったですね。研修とはいえ、日中は仕事、夜は接待で大変だったと思いますが、こまめに送ってくれました。今でも当時のファクスのやりとりを大切にしています。

勝栄：少なくとも週に一度はファクスを送り、1ヶ国から必ず遺跡などの絵葉書を送るようにしていましたが、滞在先で彼女からの何気ない、普段の会話のようなファクスを貰うのが本当に嬉しかったですね。

勝栄さんが昨年3月に帰国された時、美香さんはさぞ嬉しかったと思いますが。

美香：これで普通の生活を本格的に確立できる! (笑) という喜びと安心感がありましたね。離れて暮らすことで“普通”が実にありがたいものだと思います。何でも日常のことをすぐに話し、聞けるというのが、実は心の支えであり、すごいことなんだとわかりました。

今『ありがたい』とおっしゃいましたが、これまでの経験からお二人にとって『感謝』とはどういうものですか。

勝栄：感謝をする、とは“大事にする”ことだと思う。感謝は、傲慢だと出来ない。謙虚な心が必要です。相手を肯定的に受け止めることであり、その結果お互いを豊かにするものです。妻と離れて暮らした試練にも感謝しています。おかげで自信を持って二人で生きていける実感があります。そういうえば、研修中に彼女のファクスの中の“ありがとう”の言葉が嬉しく、自分もそう言いたくなったことがあったのを覚えています。

美香：夫と離れた暮らしを通して、私も謙虚な心を持つことの大切さを見出しました。例えば“3つ願って2つしかかなわない”と辛いですが、“1つだけ願っていたら2つかなった”となると嬉しいですね。それと、夫が“ありがとう”の言葉が嬉しかったと話していましたが、「ルカによる福音書」に“人にしてもらいたいことを人にしなさい”という教えがあります。“ありがとう”は、この教えのきっかけを作る言葉だと思います。

お互いわかりあうために  
～毎晩語ったあの1年～  
寺嶋史和・依理ご夫妻

まずはお二人の育った環境について教えてください。

**依理**：私達夫婦はまったく違った環境で育ちました。私の両親は共にキリスト教信者で、私も生まれた時に（しかも産院で！）洗礼を受けましたので、自然にキリスト教の考え方を受け入れることができました。

**史和**：私は日本の伝統的な神道と仏教の文化の中で育ちましたので、最初は妻と物事に対する考え方が違うと思うこともしばしばありました。そんな私がカトリックに出会ったのはイグナチオ教会の結婚講座でした。

そんなお二人が結婚されてから最も「感謝」した出来事は？

**依理**：最初の子供が生まれたとき、当然洗礼をうけるつもりでいました。ところがカンガス神父様から、夫と共に受けた方が良くアドバイスを受け、夫と信仰や将来について話し合いました。一年近く毎晩のように。

**史和**：私も何か大きなものの存在については感じていましたが、キリスト教の洗礼を受けて信者になることまでは考えていませんでした。しかし妻と毎晩お互いの考えを語り、カンガス神父様からもお話を伺ううちに、キリスト教がとても前向きな教え

であることが解りました。そして、娘と共に洗礼を受けさせていただくことができました。

**依理**：夫が洗礼を受けたときヘルパーや友人達がパーティーを開いてくれたのですが、その時は結婚式よりも嬉しかったです。



1985年にカンガス神父様の結婚セミナーを第2期生として修了。現在はセミナーのヘルパーとしてご活躍中

「感謝」の心がお二人を支えてくれたのかもしれない。

**史和**：キリスト教という今までとは違った新しい世界に出会えたことに、そしてそのきっかけをつくってくれた妻に感謝しています。

**依理**：夫がありのままの自分を受け入れてくれて感謝しています。結婚講座では、二人が向き合って話し合うことの大切さを学ばせて頂きました。おかげで、喧嘩をするときにもお互いを解り合おうとする姿勢で臨めます（笑）。

この機会に、日頃感じているお互いへの感謝の気持ちをどうぞ。

**依理**：夫の存在自体に感謝！

感謝・感謝・感謝・感謝・感謝・感謝・感謝・感謝

Oneの読者のアンケートの中に感謝があふれています。

- 火傷をした時、夫が素早く対応してくれ、慣れない家事も手伝ってくれた。
- 日頃、感謝の気持ちを忘れてしまうぐらい、我が家が平穏で健康であることに気付き、あらためて感謝。
- 子供を育てながら自分自身が学ぶ事が多く、子供の中に神の存在を感じる。
- 家を出て、1から10まで自分がやらなければならぬので、実家の母に感謝。
- 妊娠してひどいつわりを経験した時、周囲の人達の対応に感謝。
- 夫に毎朝お弁当を作っているが、そのことで義母に感謝されたのには恐縮。
- 結婚して10年たち、その間に洗礼をさずかり、独立開業した仕事も順調。子供達も元気に育っている。
- 以前、地方で洗礼をさずかった時にお世話になった神父様がイグナチオ教会にいらっしゃったので、びっくり。目に見えない神様のお恵みがいただけたのだと感謝。
- 私達は地域のアマチュア・オーケストラ

で出会って、結婚後も活動を続けている。音楽という共通の話題、趣味を同じくする共通の仲間がいることに感謝。

- 二人の子供を持つ私は夕方にはぐったり疲れてしまう。そんな私を夫はいろいろと手伝い、大切にしてくれる。
- 子供を持つと自分の親に対して、感謝。
- 家庭の中で繰り返される事柄に対してお互いに「ありがとう」という言葉をかわしている。
- 私達はEメールがきっかけで知り合った夫婦なので、パソコンに感謝。
- 信者でない主人が、20回もクラスに参加してくれたことに感謝。
- 感謝の気持ちを表現することは難しいことと感じる。特に日本の男性（夫も含めて）は表現することが少なく、ついこちらから感謝の要求をしてしまいがち。妻の日、夫の日があればと思う。
- 結婚後の住まいは社宅だが、隣人の顔も知らないほどのつき合い。今になって実家の周りの人達の暖かさに感謝。

**史和**：日頃仕事で忙しくしていますが、家の中のことをやってくれて、忙しい自分をサポートしてくれていることに感謝しています。（依理さん曰、「夫は感謝を表現するのが下手なんです。」）

最後にお二人にとって感謝とは。  
**史和**：生かさせてもらっている、役立たせてもらっていると思うことです。

**依理**：ありがたいと思って受け入れられる心です。

“感謝する人となる”  
ための秘訣はこれ！

かつて結婚セミナーの指導をなさったことがあり、現在は故郷ハンガリーでご活躍のネメシエギ神父さまの“感謝する人となるために”という記事からの要約



ベトロ・ネメシエギ神父様

- ♥高慢でない、勇気ある人になろう——権利の限界を忘れてはだめ。人間がもっとも必要とする愛、救し、慈しみは、権利として要求するのではなく、ただで与えられる恵みである。その恵みをいただいたとき、高慢でない限り、人は感謝する。でも、いつも感謝の気持ちをもつためには、高慢を避けるだけでは不十分。この世の中の苦しみ、涙を、神への信頼にもとづいて受け入れる勇気をもつことが必要。そうすれば人は、喜びにも、悲しみ、苦しみにも感謝することができる。
- ♥適切な速さで人生を歩もう——速すぎも、遅すぎもせずに、一つ一つの体験を味わい、感謝の念を感じ、学ぶことができるようなテンポで人生の道を歩むことが大切。
- ♥退屈でない純粋さを身につけよう——喜びと希望、苦しみと悲しみのある不完全なこの世の中で、利己心と欲望に支配されず、かつ退屈な完璧主義におちいることのない純粋さをもとう。
- ♥本物の平和を得よう——諦めや見せかけではない、成すべき事を成し遂げた後に訪れる本物の平和こそが感謝の源となる。
- ♥「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすればあらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」（フィリピ4・6～7）

“感謝する人となるために”の全文コピーの用意があります。ご希望の方は教会事務所にお申し出ください。

アンケートにお答えいただきありがとうございました。



## 遷堂式にこめられた願い

—古い教会との別れの痛みを少しでも和らげ、快く新しい教会を受け入れることができるように— 主任司祭ルイス・カンガス

遷堂式のミサは、ミサの流れのなかで古い聖堂から新しい聖堂へと移動して行われます。どなたでも、一人でも多くの参加を願って、1月10日、11日の二日間、8回のミサを行います。記念に旧聖堂の絵の入ったタイルを配る予定です。教会すべての完成は、1999年の春の献堂式まで待つことにして、新聖堂の建物の完成を共に喜びましょう。

主任司祭のカンガス神父様はおだやかに、にこやかに次のように話してくださいました。「建物が変わっても、教会が皆さんの心の集う場所であることに、なんの変わりもありません。現在の聖堂との別れに涙す

ることなく、感謝の思いを胸にその時を迎えてほしい。イエス・キリストが最初に行ったミサを思い出してください。イエスは建物の壁に向かってミサを行ったのではなく、皆と共に食卓を囲み、ミサを捧げたのです。私はこれこそが教会の原点であり、新聖堂はこれかなえることのできるものだと思っています。」



## 「人種、国、宗教、をこえて、 飢えた人、裸の人、孤独な人のために」

—マザー・テレサ

1984年11月22日、聖イグナチオ教会で講演なさったことのあるマザー・テレサが日本時間で去る9月6日の午前1時に87歳で亡くなりました。マザーは貧しい人々の中のもっとも貧しい人々に奉仕することにその生涯を捧げられました。そして何よりも素晴らしいのは、マザーが奉仕した人々の中にキリストを見て、その人々に感謝の気持ちを持って仕えられたことです。

## お知らせ

ヴァレンタインデ・スーザ神父様は休暇で9月末より米国に滞在。住所は下記のとおりです。(1998年夏まで)

Fr. Valentine D' Souza S.J.

Catholic Center at Univ. of Georgia

1344 South Lumpkin St.

Athens, Georgia 30605-1345  
U.S.A.



★12月24日のクリスマス前夜ミサは夕方5時のキャンドル・サービスに始まって、毎時間ごとに、夜中の12時まで行います。混雑が予想されますので、40分前にはおいでください。

★1月1日 午前0時のミサ終了後から朝6時のミサまでの間、聖堂は一晩中開いています。新年を祝うお酒もできますよ。



## お願い!!

同級生で『One』が郵送されていない方がいましたら氏名、住所を教会事務室へお知らせください。

## 編集後記

年2回発行の『One』は、本号で創刊一周記念を迎えた。編集や取材の知識・経験が乏しく、覚えることがいっぱいあったせいか、短い一年だった。

創刊号と第2号では現・新聖堂の特集を組んだが、本号では《感謝》という、夫婦・結婚生活と直接関係のある内容を初めて取り上げた。抽象的なテーマのため、まとめるのに苦労したが、一方では多くの人々から素敵なお話を伺うことが出来た。特にインタビューにご協力頂い

た三組のご夫婦、そして前回のアンケートの中で《感謝》について語って頂いた方々に、この欄を借りて「感謝」を申し上げたい。今回の特集を通じて、読者の皆様、妻に、夫に、もっともっと「ありがとう」の気持ちを伝えたいなれば、と祈っている。

今後も結婚生活に密着したこうしたテーマに、皆様と共に積極的に取り組んで行きたいと思う。

編集局一同

## 教会からのお知らせ

こんなにあります イグナチオ教会の心に響くイベント

11月9日(日) 七五三 14:45

11月23日(日) 結婚感謝ミサ 14:45

(献堂以来の挙式者のため)

11月30日(日) 結婚感謝の集い 14:45

(セミナー修了者のため)

12月3日(水) 聖フランシスコ・ザビエル祝日

12月8日(月) 無原罪の聖マリア祝日

12月23日(火) クリスマス

「子供と家庭のミサ」14:00

12月24日(水) クリスマス前夜ミサ

17:00(キャンドルサービス)、  
18:00、19:00、20:00、  
21:00、22:00、23:00、  
24:00(英語)

12月25日(木) クリスマス・ミサ

6:00、7:00、8:00、  
9:30(ラテン語ミサ曲)、  
10:45、12:00(英語)、  
13:15(スペイン語)、18:00

12月31日(水) 一年の感謝ミサ 18:00

1月1日(木) 元旦・ミサ

0:00、6:00、7:00、8:00、  
9:30、10:45、12:00(英語)、  
13:15(スペイン語)、18:00

1月10日(土) (遷堂式) 18:00

1月11日(日) (遷堂式) 6:00、7:30、9:00、  
10:30、12:00(英語)、  
13:30(スペイン語)、18:00

1月16日(金) この日から現聖堂立ち入り禁止となります

2月5日(木) 日本26聖人殉教者祝日

2月25日(水) 灰の水曜日

3月21日(土) イエズス会叙階式 15:00

4月12日(日) 復活祭

## 編集参加者 (五十音順)

北見 弘美 藤枝 雅幸/香織  
城間 正人 満尾 佳子  
鈴木 肇/庸子 柳谷 幸介/晃子  
林 彰 山本 浩  
福富 達夫 内田 京子

発行 聖イグナチオ教会 結婚委員会  
(担当/城間 正人・鈴木 庸子)

ご意見・記事投稿・アンケート返送は下記までお願いします。

〒102 東京都千代田区麹町 6-5

聖イグナチオ教会 One編集局

TEL : 03-3263-4584

FAX : 03-3263-4585